

マッハ士道館3 4大タイトルマッチ

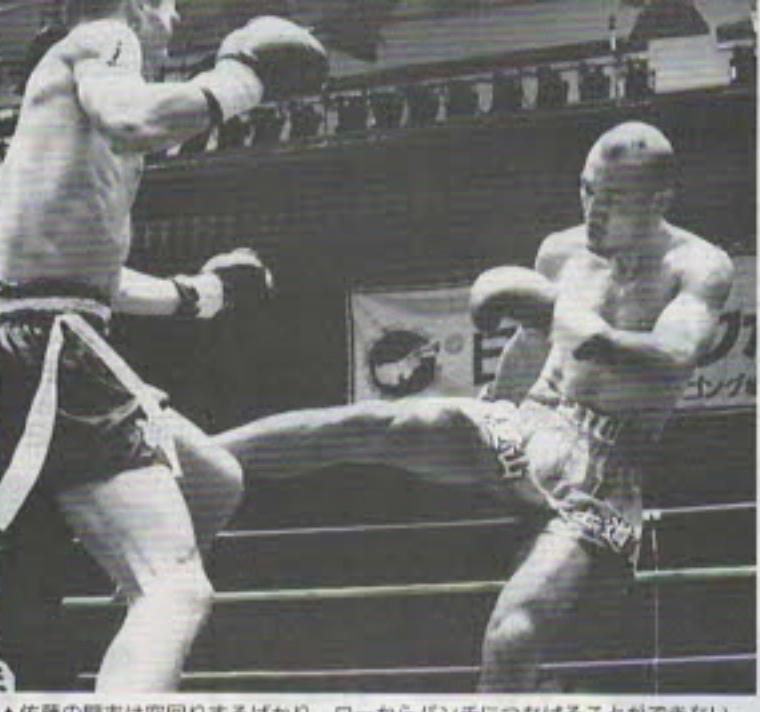
マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
1月24日 後楽園ホール

RESULTS
▼J-ライト級王座決定トーナメント
三津山文朗 <判定3-0> 瀬戸口たけし
(マイウェイ) (土道館・新産)
山崎通明 <判定3-0> スネーク加藤
(東全) (土道館革命塾)
▼75kg契約
大石 享 <KO初回2分10秒> 永田健一
(土道館) (マイウェイ)
▼68kg契約
シチサック・トー・アマソン
(タイ) <判定3-0> 後藤隆史
(シカ)
▼ヘビー級
ウィチャー・ン・チャー・ロッチャナチャイ
(タイ)
<TKO2回1分37秒> 若狭弘幸
(土道館)



▲ドロー防衛を果たした佐藤だが、不本意な初防衛戦となった。

MA日本フライ級選手権試合5回戦
佐藤 堅一 (引き分け) 井上 哲
(土道館 61・05・0) (土道館 61・05・0)
11勝 3KO 3敗 3分
※佐藤が初防衛に成功
5勝 3KO 1敗 3分



▲佐藤の闘志は空回りするばかり。ローからパンチにつなげることができない。

「これが僕の実力です」 両者決め手に欠き佐藤がドロー防衛 試合後に涙を見せた王者の課題は…

■参考記録

	(ジャッジ) 岡林	(ジャッジ) 松田	(ジャッジ) 石川
	佐藤 井上	佐藤 井上	佐藤 井上
1 R	10 10	10 10	10 10
2 R	10 10	10 10	10 10
3 R	10 9	10 10	10 10
4 R	9 10	10 10	9 10
5 R	10 10	10 10	10 9
TOTAL	49 49	50 50	49 49

「こういう試合をすると築いてきた自信がなくなりますがね」試合後、佐藤が語った言葉が、すべてだった。佐藤は得意なパンチの距離まで詰めることができず、挑戦者の井上も得意のヒジを踏み込んで打つことができず、お互いに明確にポイントを得ることができないまま時間切れ。判定はドローとなり、薄氷の上に辛うじて王座を守った佐藤だが、当然笑顔はない。「後輩も結果を出しているのに自分だけ…」こう言っているにつまらせると、それまで堪えていた涙がこぼれ落ちた。

佐藤のこれまでの道程は決して平坦なものではない。挫折を味わうたびに、克服し培ってきた自信が無くなるというのはよっぽどのことなのだろう。次の試合までに克服できていればいいのだが…。(M)



西村が元国際式王者・山木を 激しい打ち合いの末に逆転KO

■参考記録

	(ジャッジ) 石川	(ジャッジ) 岡林	(ジャッジ) 島田
	西村 山木	西村 山木	西村 山木
1 R	10 10	10 10	10 10
2 R	10 9	10 9	10 10

▲パンチで積極的に前に出てくる山木に押され、防戦一方に追い込まれてしまったが…。



▲逆転KO勝ちで初防衛を果たした西村。現在のところ10連勝中だ。

1年前にタイトルを獲得した西村は、その後リングから遠ざかっており、復帰戦となった初防衛戦では、国際式の元日本フライ級王者・山木の挑戦を受けた。

MA日本フライ級選手権試合5回戦
西村 鋼太 (KO3回) 山本小兵太
(花道 50・15・0) (山本 50・15・0)
18勝 1KO 0敗 5分
※西村が初防衛に成功
4勝 3KO 1敗 1分

新王者の実力見せつけられず 砂田は一步足踏みのドロー防衛

▶山崎戦では自分からミドルを仕掛けていった砂田だが、今回は受けのスタイルになってしまい出来は一つ。



MA日本フェザー級選手権試合5回戦
砂田 政彦 (引き分け) カズ工藤
(シカゴ 50・15・0) (カズ 50・15・0)
8勝 1KO 1敗 5分
※砂田が初防衛に成功
7勝 3KO 1敗 1分

▲激戦区のフェザーで他団体のチャンピオンと肩を並べることが出来るか。

「当たってはいたんですけど、これやノっていうインパクトのある技が欲しかったですね。ベルトを返上したいぐらい恥ずかしい試合だった」と言う砂田だが、「もう一度挑戦する時まで持っていて欲しい」との工藤の気持ちに伝えることが王者としての第一歩になるだろう。(K)

■参考記録

	(ジャッジ) 島田	(ジャッジ) 松田	(ジャッジ) 岡林
	砂田 工藤	砂田 工藤	砂田 工藤
1 R	10 10	10 10	10 10
2 R	10 10	10 9	10 10
3 R	10 10	10 9	10 9
4 R	9 10	10 10	10 10
5 R	10 10	10 10	9 10
TOTAL	49 50	50 48	49 49

試合間隔が空いていたこともあり動きが堅い西村に対し、山木は蹴りをほとんど出さないかわりに、テンポよくパンチを上下に打ち分けていき、遂に3回、左フックで西村からダウンを奪った。勢いに乗じラッシュをかけた山木だったが、あわやというところまで追い詰められた西村の起死回生のヒジが一閃。リングに伸びたままの山木は担架で運び出されるほどの倒れ方だった。

初防衛を果たした西村はまだ無敗記録を更新中で、かなり勢いのある選手。今年は防衛戦の他にも様々な試合を行なってほしいものである。(M)